

笠置町橋梁長寿命化修繕計画の概要

背景・目的

本町は平成24年4月現在で歩道橋などを含めて30橋を管理しております。



潜没橋(供用年数：50年)



羽根田橋(供用年数：33年)

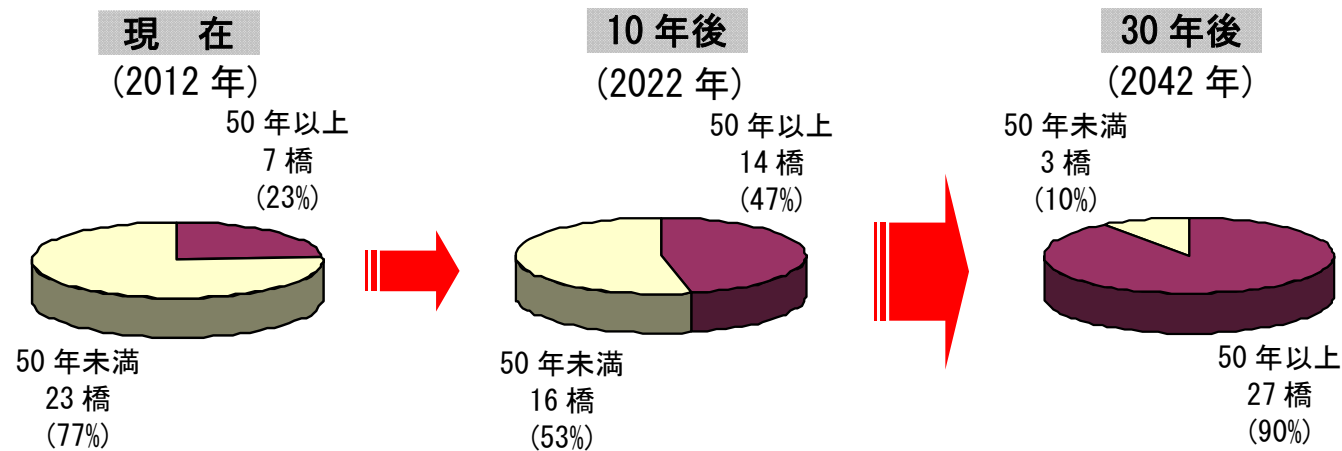


白鷺橋(供用年数：17年)

現在、高度経済成長期に架けられた橋が急速に老朽化しており、補修する費用の増加や時期が集中することが懸念されています。本町では、30橋のうち半数以上の橋が既に架けられて30年以上を迎えており、30年後には90%が架けられて50年を迎える高齢化橋梁となってしまいます。

高齢化橋梁の増加により、安心・安全な町民生活を支える道路ネットワークが悪化するだけでなく、多大な維持補修費用が必要となってしまいます。

そこで、町が管理している橋梁に対する維持管理手法をこれまでの「悪くなってから対策を行う」といった管理手法から、「傷みが大きくなる前から計画的に対策を行う」といった予防的な管理手法に移行し、安心・安全な道路ネットワークを維持するとともに、維持管理にかかる費用の縮減を図るものとしています。



橋の維持管理方針

次のような方法で橋の維持管理を行います。

- ・5年に1度程度、定期点検の実施
- ・日常の道路施設パトロールにおける点検

これらの点検を通して、橋の傷みを早期に発見し、その傷みが大きくなる前に対応します。また本計画は、本町の管理橋梁全てを対象として修繕計画を策定しています。

修繕計画の内容と効果

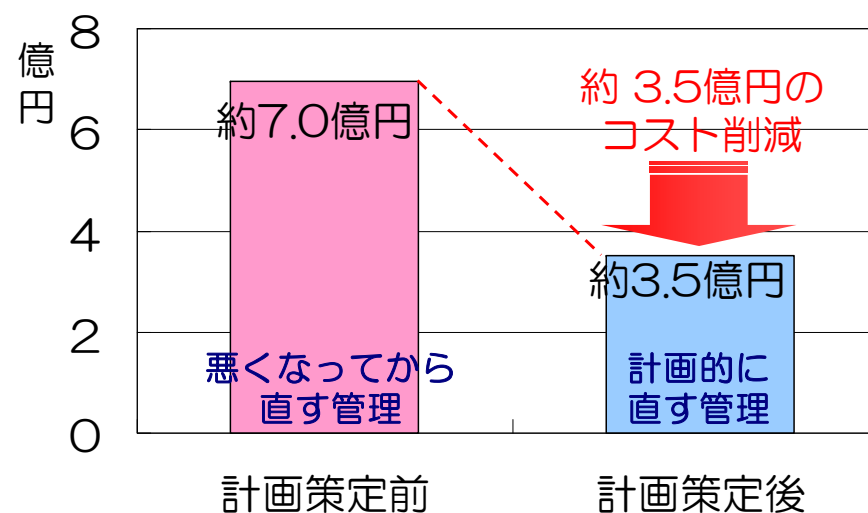
策定した計画に基づき平成26年度より傷んだ箇所の補修などを順次実施します。



修繕

舗装の打換え
防護柵の補修
コンクリートの修復
塗装の塗替え

計画策定前と計画策定後の事業費概算比較



本計画で計画的に橋の補修をすることで、橋の寿命を50年以上延命できるといわれています。また今回策定した計画によって橋の維持管理費用が7.0億円から3.5億円程度に節約できることになり、約3.5億円のコスト削減を図ることができると期待されます。

今後、本計画に基づいて橋の点検、維持、対策を繰り返し行うことにより、橋の管理をすすめ、経済的で安心・安全な道路ネットワークを維持するように努めます。

助言を頂いた学識経験者

本計画策定にあたり、橋のマネジメントの専門家である
京都大学大学院工学研究科 服部篤史 准教授から、貴重なご意見やアドバイスを頂いております。

